

日本共産党議員団、ため池、干ばつ被害田を視察



日本共産党議員団と平良木前市議は20日、9月議会を前に現地視察を行いました。現地調査したひとつはため池です。上越市では、ため池が決壊するおそれがある場合またはため池が決壊した場合に備え、ため池ハザードマップを作成しています。作成されているため池は45箇所で、決壊してから10分後にどうなるかを図示しています。この日は、そのうちの1つ、浦川原区山本にある刈安池(左の写真)を見てきました。池の高さと、決壊時の様子をイメージできました。また、ハザードマップは作成されてはいませんが、用水のたまり具合を見るため同区の菱田大池も見てきました。こちらは、先日の大きな雨にもかかわらず、たまり具合はわずかででした。



現地調査したもうひとつは干ばつ被害にあった田です。安塚区の上方でちへクワールの稲作をしている〇さんから案内してもらい、見てまわりました。先日のたくさんのお雨にもかかわらず、被害状況は変わらず、収穫は皆無、または極めて少ない収量となる面積が2ヘクタール近くになるとのことでした。〇さんは、「収穫はまったく見込めない。水不足を予想して作付しない田も残したというのに……」と穂を出せない、出しても実らない、こういう稲はホールクワロップサイレージにでもして持って行ってもらえるとありがたいと許えていました。

右の写真は干ばつ被害を受けた「こしいぶき」作付の田んぼです。

新生児聴覚検査への助成、ぜひ上越市でも

新生児の約1000人に1人が先天性難聴をもって生まれていると言われていますが、出生直後の聴覚検査で早期診断を行い、早期の対応を行えば影響を最小限にとどめることができるそうです。

厚生省は検査を促進するため、平成19年度から市町村に対して地方交付税措置を行い、通知も出してきました。現在、検査体制が整い、分娩を取り扱う施設のほぼすべてで検査を行うことができます。上越市においては最新のデータで、対象となる子どもの98%が検査を受けているとのことですが、平均5000円程度の検査費用は自己負担

となっています。こうしたなか、厚生省は2016年の通知で、「各市町村が公費負担し、受診者の経済的な負担を軽減するよう」に求めています。新潟県内では出雲崎町と刈羽村のみの助成にとどまっていることが日本共産党の渋谷明治県議の質問で明らかになりました。上越市では、「現時点では、だちに(助成を)実施する必要性は低い」(6月議会、村山市長答弁)としています。

全国レベルで見ると岡山県や長崎県では全市町村が公費助成しているといえます。ぜひ、上越市でも実施してほしいものです。

直江津・頸城の会から要望
「在来線と地域のあり方を考える直江津・頸城の会」から議会に対し、JR東日本など鉄道各社に働きかけてほしいと要望がありました。

要望項目は、「新潟方面への直通快速列車の運行復活」(JR東日本)、「車内トイレの設置」(北越急行)、「JR水津で据え置かれていた現行運賃の継続」(えちごトキめき鉄道)など8項目です。今後、9月議会などで質問するのととも、議会としてどうするかをしっかりと議論していきたいと思っております。



【クズ】マメ科のつる性の多年草。漢字で「葛」と書きます。牛やヤギなどの家畜を飼っていたときは大事なエサのひとつでした。いまは邪魔もの扱いされることが多い。花は濃紺紫色。秋の七草のひとつ。写真は、大島区大平にて20日撮影しました。

はしづめ法一の
活動レポート

No.1872 2018.8.26
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

「あつ、また歩いてる。楽しそうだなあ。何が面白いのかな」。夕方、吉川区の六万部と町田間の県道を通るたびに四人の女性が歩いているのが気になります。

お盆前に四人の中で最年長のM子さんに尋ねてみました。「何か、おもしろいこと話してるがかね」と。「なーに、とうちゃんが悪口言ったりしてるだけだわね」M子さんはそう言っただけで笑いました。

お盆が終わった最初の日曜日、私は四人と一緒に歩かせてもらいました。集合場所は県道と市道が接続する六万部の三叉路です。五時一五分頃にスタートし、三〇分近くかかって最後まで歩きました。

グループの中で先頭に行くのは私と同年のHさんです。約一キロほど離れて他の三人と私が続きました。歩きだして驚いたのは、スピードがけっこう速いことです。私から、「速いね、駅の中を歩いている東京の人みたいだ」と言うと、「東京は確かに速いわね」と誰かが答えました。体重があつて、腹も出ている私にはついていくのがやっとのスピードでした。

ただ、みんなが同じテンポで歩いていけば、おしゃべりは出来るんですね。「橋爪さんが後ろについていると、誰もしゃべらんかもしらんよ」とM子さんが言っていたのですが、じきにおしゃべりが始まりました。「ねえ、どここの神社のお賽銭、被害にあつたんだって」と誰かが言ったものですから、私が冗談っぽく、「犯人はテレビで探している例の人かな」と言うと、「こんがんとこへくるわけねえしね」と他の人がかわしました。

しばらく進むと、西野島の十字路へ出ます。十字路から左に曲がって五〇分ほど進んだところで、「わあ、スイカだらけだ。もったいない」と誰が言うと、みんなは一

斉に畑の方を見ました。

ネットを囲んであるその畑には、いつぱいとれて食べきれなかったのでしょうか、もいだスイカが五、六個寄せてありました。道路側のネットのそばにも特別大きいスイカがあります。「これももったいないスイカだね」「でも、まだもいでねえがだよ」「おまんた、ここんちの人、いなるよ」と賑やかにになりました。話が賑やかになつても、みんなはスピードを落とすことなく歩き続けます。

西野島から町田へ行く途中、田んぼの中に「つきのあかり」と書き添えてある立て札がありました。その字を見た私は前日のNHKテレビ、思い出のメロディーで水前寺清子が「365歩のマーチ」を歌い、テレビ画面の下には水前寺清子の手書きの歌詞が出ていたことを紹介し、「それがまた上手な字だね」と言うと、「歌詞って、水前寺清子を書いたの？」と聞く人がいて、これでまた話はずみませんでした。

町田のT字路を過ぎ、六万部へと向かい始めた頃、木から下がっているアケビヅルが見えました。このアケビの話をする、M子さんが「前に採ったことがある」と言いました。やはり見えていたようです。

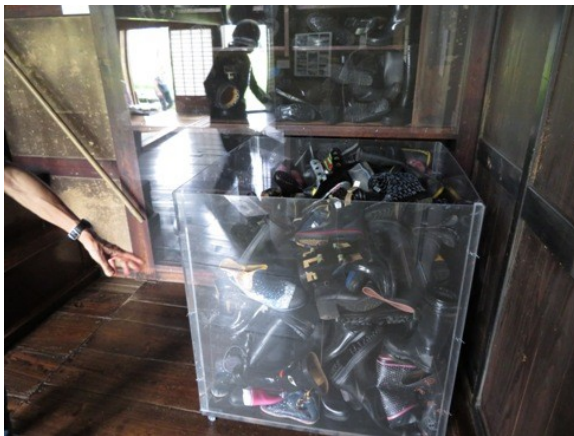
終点は最初の集合場所から二〇分ほど離れた車庫の前。北からの涼しい風が通り抜けていきます。「いい風が吹くね」と私が言うと、Iさんでしようか、「だから、ここにいるの」と答え、M子さんやYさんたちもニコニコ顔になりました。

今回一緒に歩いて、改めてわかりました。歩くスピードだからこそ見えて、ちよつとした発見もある。それを四人が共有することで話が広がっていく。そして新発見です。歩いておしゃべりすることで、歩く喜びが増幅されていくんですね。

【大地の芸術祭作品鑑賞】

松え山で15日、上越の作家の作品を鑑賞してきました。作者は前山忠さん、池原浩子さんの他、妙高市の東條麗子さんなどです。

いずれの方も、普通の人間が気づかない視点と発想で作品づくりをされています。今回の作品も、雪を柱の中に押し込めてしまう、隙間のある雪の柱をつくる、長靴



を使って雪国で暮らす人たちを表現する、障子戸の紙に民話を書きこむなどユニークなものばかりでした。あつと思ったのは、2006年の第1回目のときに説明していただいた四角い枠を通じてものを見るという手法がずっと貫かれているということでした。左上の写真は長靴を使った作品。

【第1回「手しごと・手造り」柿崎・上越作品展】

柿崎区浄福寺で行われた作品展を観てきました。実行委員会の角張さんが「上越の北の地域でもにぎやかにしたい」と語っておられましたが、会場のお御堂のなかの賑わいにはびっくりでした。

市役所でお世話になった内山さんの竹細工、吉川区在住の五十嵐さんのお面(写真)、さをり織りの坂井さん等、9人の作家の作品を楽しませてもらいました。浄善寺の坊守さんが素敵なプレートを制作されているのには驚きました。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	8月15日(水)	8月22日(水)
上越南消防署	0.050	0.050
上越北消防署	0.047	0.043
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.050	0.043
頸南消防署	0.063	0.057
東頸消防署	0.047	0.047
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.040	0.057